

令和 3 年 5 月 11 日現在

機関番号：32508

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K01190

研究課題名(和文) オーストロネシア諸族における在来政体の比較研究 東南アジア島嶼部を中心に

研究課題名(英文) A Comparative Study of Indigenous Polities among the Austronesians: Focusing on Insular Southeast Asia

研究代表者

杉島 敬志 (Sugishima, Takashi)

放送大学・京都学習センター・特任教授

研究者番号：80196724

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究はオーストロネシア諸族の在来政体の構成原理を解明する試みである。この目的との関連で次の2つが重要である。その第1は、政体の中心に位置するとともに、親族組織の規範に反する兄弟姉妹関係に焦点をあわせことである。第2は、在来の政体を親族とは異なる構成原理に基づく組織体として扱うことである。本研究では、フィールド調査と文献研究に基づく比較をおこない、オーストロネシア諸族の在来政体の根源に位置する多様なタイプの兄弟姉妹関係に関する情報を収集するとともに、それらの共通点と相違点を明らかにできる分類システムを構築した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的、社会的意義は次の3つである。第1は兄弟姉妹関係に着目することでオーストロネシア諸族の在来政体を広範かつ統合的に比較する展望を確立できたことである。第2は外来の異能の男による政体の創設を政体の基本原理とみなすマーシャル・サーリンズの外来王論と、その根底にある人類学的な理論的前提を批判的に検討する論拠が発見できたことである。第3は、本研究が切り拓いた比較の展望のなかに日本の齋王や琉球の祝女を位置づけ、オーストロネシア諸族との類比と対比を示すことで、日本や琉球の歴史研究にわずかにせよ貢献できる見通しが得られたことである。

研究成果の概要(英文)：This study is an attempt to elucidate the constitutional principles of the indigenous polities of the Austronesians. The following two are fundamentally important in relation to this purpose. The first is to focus on brother-sister relationships that are at the heart of the regime and violate the norms of kinship. The second is to clearly recognize and analyze the indigenous polities as an organization based on a constitutional principle different from that of kinship. In this study, we collected information on various types of brother-sister relationships that are at the root of the Austronesian indigenous polities through field research and literature research, and constructed a classification system that can clarify their similarities and differences.

研究分野：文化人類学

キーワード：オーストロネシア 在来政体 兄弟姉妹 インセスト 招婿婚 外来王 オセアニア 東南アジア島嶼部

## 1. 研究開始当初の背景

オーストロネシア諸族の在来政体は親族組織と同じ「部品」から構成されている。そのため政体と親族は一体のものと思われ、そのように論じられてきた [例えば Goldman1970; 馬淵1974; Ortner 1981; Sahlins 1958]。その影響ある現在の代表例は外来王論 (stranger king theory) であり、サーリンスは政体を支配する権力の起源を外来の並外れた男と在来民女性との結婚に求める現象が東南アジアやオセアニアのオーストロネシア諸族だけでなく、世界のいたるところに見出されることを主張するとともに、こうした広範な分布の背後には、血縁集団がインセスタブーに裏打ちされた婚姻によって外部の血縁集団と関係をもたざるを得ない、親族的に構成されている人間社会の基本条件があるとのべている [サーリンス 1984, Sahlins 2012]。

こうした過度に一般化された議論では、それに適合しない多くの事例が当然にも無視されている。一例をあげると、研究代表者が1983年以来フィールド調査をおこなってきた東インドネシアのフローレス島では、破滅的な大洪水を生き延びた兄弟姉妹が夫婦になり、その子孫が分枝するなかで複数の外婚的な父系集団が形成されていくことを起源神話とする政体をはじめ、親族組織とは異なる構成原理に基づく在来政体の事例が広く認められる。また、オーストロネシア諸族の民族誌を読み進めるうちに、同様のことを示す事例が数多くあることにも気づいた。

ここから導き出されるのは、次のような学術的「問い」である。オーストロネシア諸族の在来政体は、結婚によって兄弟と姉妹を分離させることを基本とする親族の構成原理ではなく、むしろ兄弟と姉妹を未分離な状態に留める構成原理に基づいているのではないか？ そうであるなら、未分離な兄弟姉妹関係には、インセストによるもの以外に、どのようなタイプがあるのか？ こうしたタイプが複数あるとして、それらは政体のなかで、どのように位置づけられ、どのような役割を果たしているのか？

## 2. 研究の目的

これらの問いに答えるために、本研究では在来政体の位相に現れる様々な兄弟姉妹関係の異同を整理する分類システムの構築を目指す。その出発点とするのは図1に示すような4つのタイプ(型)からなる分類システムである。

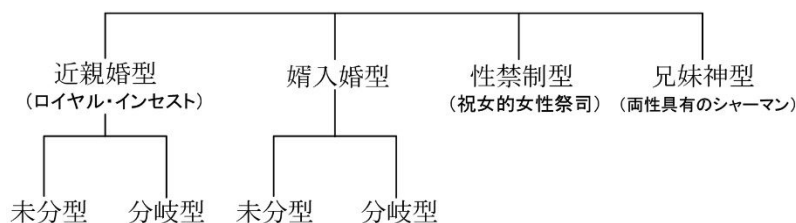


図1 分類システム

第1のタイプは上述の兄弟姉妹が夫婦になる「近親婚型」である。

第2のタイプは外来の男が在来民首長の姉妹に婿入りする「婿入婚型」である。この型には例えば次のような事例が含まれる。親族組織の規範では女性は婚出することで自集団(兄弟)から分離されるが、政体の最高位の首長は姉妹を婚出させずに婿を取らせ、政体に豊穡をもたらす儀礼を兄弟とともに実施する女性首長に就任させる。また政体の起源神話では外来の男が婚資を支払わずに在来民首長の姉妹に婿入りしたために、この姉妹は兄弟である在来民首長と分離されなかったことが語られる。

第3のタイプは政体の最高位の首長の姉妹を琉球沖縄の祝女のように処女にとどめ、政体に豊穡をもたらす儀礼を兄弟とともに実施する女性祭司に就任させる「性禁制型」である。

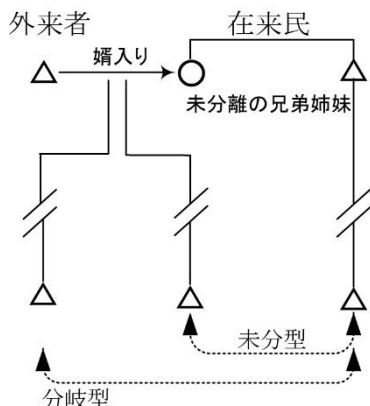


図2 未分型と分岐型

第4のタイプは「兄妹神型」であり、ここには例えば次のような事例が含まれる。政体に関わる神々は兄弟姉妹であり、政体の最高位の首長が実施する豊穡儀礼では両性具有のシャーマンが重要な役割を果たす。このシャーマンは、兄弟神と姉妹神の双方を一身に体現しているとされ、両性具有であるために男性あるいは女性として結婚できない点で親族組織の規範に反している。

本研究の第二の目的は、東南アジア島嶼部を中心に、しかし台湾やオセアニアの事例を無視することなく、オーストロネシア諸族の在来政体に関する文献調査を幅広くおこない、上にのべた分類システムに従って事例を整理するとともに、分類システムを増補改訂する。一例をあげると、婿入婚型には婿入した外来の男の子孫と在来民の子孫が別々の出自集団を形成する「分岐型」と、婿入した外来の男の子孫が在来民集団に吸収されてしまっている「未分型」があり、同様のサブタイプは近親婚型でも定立できることや、王族だけに許されるバリ島やハワイのロイヤル・イ

ンセストを近親婚型の事例として整理するなどの方向で(図1、2参照)分類システムを運用しながら、その増補改訂をおこなう。

第三の目的は、不足の資料を補足するために、東南アジア島嶼部で各タイプの典型例がみられるインドネシアの複数の地域に赴き、短期間のフィールド調査をおこなう。

最後に各タイプの兄妹姉妹が政体に果たす役割を明らかにする。これまでにおこなった予備的研究では、政体の位相に現れる兄弟姉妹は政体に豊穡をもたらす、その起源や中心としての位置を占めていることがわかっているが、より広範囲の比較研究をおこなうことで、この仮説を検証する。

オーストロネシア諸族の政体と親族は一体のものと思われ、そのように論じられてきた。そのため、親族組織の規範に反する様々なタイプの兄弟姉妹関係が在来政体の起源や中心を成していることや、この点で在来政体が親族組織とは異なる構成原理に基づく組織体であることが見えにくくなっていった。本研究は、このことに焦点を合わせて比較研究をおこなうことで、オーストロネシア諸族の在来政体に関する広範な研究の展望を拓こうとするものであり、そこからオーストロネシア諸族をとりまく周辺地域との相違点や共通点も明らかになることが予想される。

### 3. 研究の方法

東南アジア島嶼中部の政体と親族の研究を続けてきた西島薫を研究協力者とし、本研究の目的にそって、研究協力者とともに関連文献を幅広く探索する。

インドネシア・フローレス島中西部の近年までアクセスが困難だった地域で近親婚型と婿入婚型のサブタイプが混在する状態について、研究代表者が数週間のフィールド調査をおこなう。また研究協力者がインドネシア・カリマンタン島のダヤック人のウルアイ王国で数週間のフィールド調査をおこなう。

フィールド調査に関する情報共有と文献調査の進捗状況を報告しあうミーティングをおこない、研究の促進を図る。これが本研究の中心をなす作業となる。

またオーストロネシア諸族の分布域と境界を接する地域を研究している文化人類学者や歴史学者と議論や意見交換をおこなうことで、オーストロネシア諸族の政体と親族の基本的特徴を外部的視点から認識する。

以上のような作業をとおして、東南アジア島嶼部のなかでも多くの民族誌が書かれ、情報の豊富なインドネシアのフローレス島、ティモール島、スマトラ島、ジャワ島、バリ島、スラウェシ島、カリマンタン島の政体を詳細な比較のための事例として取り上げ、本研究が提示する枠組みにそって、それらがどのように描き直せるかを具体的に示す。またオセアニアや台湾にも比較研究の範囲を広げることに努める。

### 4. 研究成果

(1) 中部フローレスのリオ語が話される地域の面積は約 3000 km<sup>2</sup>である。そこには 50 ほどの首長国があり、その約 2 割の首長国に未婚の女性首長がいる。本研究ではこれらの首長国でフィールドワークをおこない、未婚の女性首長に関する資料を収集した。また研究協力者の西島薫はインドネシアの西カリマンタン州クタパン県でフィールドワークをおこない、ウルアイ王がおこなう各種の儀礼と、その歴史的変遷に関する資料を収集した。

(2) 中部フローレスでおこなったフィールドワークから、近親婚型のサブタイプとして理論的に仮構していた分岐型に相当する具体例のあることが確認できた。

(3) またこのフィールドワークでは、未分型にも分岐型にも分類できない近親婚型の事例を調べる機会をえた。この事例にもとづき未分型でも分岐型でもない近親婚型の第3のサブタイプとして「併合型」を定立した。

(4) 中部フローレスでフィールドワークをおこなったリオ語が話される地域の東側にはシッカ語が話される地域が広がっている。その大半はかつてのシッカ王国の領域であり、この王国は数世紀にわたりカトリックの影響を受けてきた。この王国について文献研究をおこない、本研究で用いた比較の枠組をシッカ王国に適用する場合の範囲と限界を明らかにした。

(5) ジャワ、バリ、スラウェシ、スマトラ、ボルネオ/カリマンタンを対象に文献研究をおこない、近親婚型や兄妹神型に分類できる政体の起源に関わる神話、王権に関わる信仰や儀礼行為について多くの情報を収集し、それらを比較研究上どのように位置づけるべきかについて考察した。

(6) ポリネシアのサモア、ティコピア、プカプカにおける高位の男性首長の姉妹や娘を、農耕、戦争、遠洋航海に関わる祭祀に従事させる制度について文献研究をおこなった。こうした女性たちは、婿をとることも、男性との性関係も禁止されている点で共通しており、近親婚型や婿入婚型とはべつに「性禁制型」あるいは「処女型」と仮称するタイプを定立する必要があるとの結論をえた。

(7) ハワイの王族がおこなっていたロイヤルインセストは広く知られているが、ポリネシアにはハワイ以外にもロイヤルインセストがおこなわれていたソシエテ諸島のような事例があることを知り、ポリネシアの民族誌をより広く探索する必要があることがわかった。

(8) ポリネシアのトンガの文献研究をおこない、そこでは近親婚型と婿入婚型が混在して現れていることを明らかにした。また中部フローレスとトンガを比較することで、外国人を入婿と

することが、外国と対比されるところの国土を領有していることの表明であるということも解明できた。

(9)外国人の入婿という観点は、主にフィジーの事例にもとづくサーリンズの外来王論を再考させる。中部フローレスとポリネシアを比較することで、サーリンズの外来王論を批判的に検討できる論拠が得られた。

以上のような研究成果の多くは、杉島 [2020, 2017] および西島 [2020] の各所で部分的に展開されているが、より本格的な議論の展開は今後発表する共著論文でおこなう。

#### 参考文献

- Goldman, I. 1970 *Ancient Polynesian society*. The University of Chicago Press.
- 馬淵東一 1974 『馬淵東一著作集 第三巻』社会思想社。
- 西島 薫 2020 「神器が織りなす政体 西部カリマンタンのダヤック人王権の事例から」『東南アジア研究』57(2):109-135。
- Ortner, Sherry 1981 "Gender and sexuality in hierarchical societies." Sherry Ortner and Harriet Whitehead (eds.), *Sexual meanings: The cultural construction of gender and sexuality*, pp.359-409, Cambridge: Cambridge University Press.
- Sahlins, M. 1958 *Social stratification in Polynesia*. Seattle: The University of Washington Press.
- 2012 "Alterity and autochthony: Austronesian cosmographies of the marvelous." *Hau: Journal of Ethnographic Theory* 2(1):131-160.
- サーリンズ、M. 1984 「外来王 あるいはフィジーのデュメジル」上野千鶴子訳 『現代思想』12(4):50-75。
- 杉島敬志 2017 「インドネシア・中部フローレスにおける未婚の女性首長をめぐる比較研究 オーストロネシア研究の視点から」『アジア・アフリカ地域研究』16(2):127-161。
- 2020 「インドネシア・中部フローレスにおける未婚の女性首長をめぐる比較研究 オーストロネシア研究の視点から その2」『アジア・アフリカ地域研究』20(1):32-64。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 杉島敬志	4. 巻 20
2. 論文標題 インドネシア・中部フローレスにおける未婚の女性首長をめぐる比較研究：オーストロネシア研究の視点から その2	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア・アフリカ地域研究	6. 最初と最後の頁 32-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14956/asafas.20.32	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西島 薫	4. 巻 57
2. 論文標題 神器が織りなす政体：西部カリマンタンのダヤック人王権の事例から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東南アジア研究	6. 最初と最後の頁 109-135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20495/tak.57.2_109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 西島 薫
2. 発表標題 神聖王のポリティクス：西部カリマンタンのダイヤック人王権の事例から
3. 学会等名 日本文化人類学会第53回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西島 薫
2. 発表標題 西部カリマンタンにおける地方政治と神器奉戴共同体のもつれあい
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西島 薫
2. 発表標題 カリマンタンの「無力」な祭司王に関する一考察
3. 学会等名 第51回日本インドネシア学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 杉島敬志（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 348+viii
3. 書名 コミュニケーション的存在論の人類学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	西島 薫 (Nishijima Kaoru)  (30838793)	京都大学・スーパーグローバルコース人文社会科学系ユニット・特定助教  (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------